

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	サービス接遇資格（ビジネス能力Ⅰ）	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	ビジネスマナー（あいさつ、正しい敬語の使い方、ビジネス用語など）を身につけ、コミュニケーションスキルを向上させる。また、電話応対、ビジネス文書の作成の演習を通し身につける。	
授業の到達目標	講義と演習を通して、仕事に取り組む姿勢を理解するとともに、社会人として必要なビジネスマナーを身につける	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ビジネス検定ジョブパス3級公式テキスト、公式試験問題集	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
仕事への取り組み方		1
仕事の基本となる8つの意識		1
コミュニケーションとビジネスマナーの基本		1
報告、連絡、相談		1
話し方と聞き方		1
来客応対と訪問の基本マナー		1
会社関係でのつき合い		1
PC、電子メールの活用		1
ビジネス文書		4
電話応対		4
統計データの読み方・まとめ方		1
情報収集をメディアの活用		2
日本経済の基本		1
ビジネス用語		2
スピーチ実習		4
試験対策		4
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 就職ガイダンス	1 コマ
	2. 福祉職者として必要となる自己理解	2 コマ
	3. 福祉専門職者の役割及び連携	2 コマ
	4. 身近な福祉関係事業所・施設の把握	5 コマ
	5. 身近な福祉関係事業所・施設の役割理解	5 コマ
	6. 就職面接の実際	3 コマ
	7. 福祉関係職者に必要となる倫理観・価値観	2 コマ
	8. 履歴書、お礼状の書き方	3 コマ
	9. 面接対策応答検討	2 コマ
	10. 就職面接会参加	4 コマ
	11. ふりかえり	1 コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア指導管理士Ⅱ	
実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケア指導管理士試験（初級）の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	試験対策としてポイントを各自復習	
使用教科書・教材・参考書	改訂版 認知症ケア指導管理士 公式テキスト他 練習問題配布	
授業上の注意点	用語などは都度確認しながら学習を進める	
授業計画（内容）	コマ数	
認知症ケアにおける社会資源 （医療保険制度、介護保険制度、公的年金制度、生活保護制度、成年後見制度と日常生活自立支援事業、高齢者虐待法、悪徳商法とクーリングオフ制度）	4	
認知症の人に対する医療サービス・保健福祉施策	1	
各種のインフォーマルサービス	1	
地域における支援	1	
認知症の医学的理解の振り返り	1	
認知症の心理的理解の振り返り	1	
認知症介護 ユマニチュード	1	
試験対策	5	
合計	15	
授業単位数	1	

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ケア・コミュニケーション	
担当教員実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	各ユニットの学習前に「学習前の30秒自己チェック」で自分の現状について確認する。基礎知識を学び、ケーススタディ、理解度チェック、演習で理解を深める。	
授業の到達目標	ケアのプロセスとしてますます求められる対人関係の感性と能力を磨くためのコミュニケーション力が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 「介護スタッフのためのケア・コミュニケーション」株式会社ウイネット	
授業上の注意点	演習には主体的に参加しましょう。	
	授業計画（内容）	コマ数
	介護におけるコミュニケーションを考える視点とその役割	1
	好感・信頼感を高めるコミュニケーション1	2
	好感・信頼感を高めるコミュニケーション2	2
	敬意を伝えるコミュニケーション	3
	被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援	3
	苦情やクレームに対応する	3
	わかりやすく説明し、同意を確認する	3
	主体的な選択や行動を引き出す	3
	チームの一員として仕事を進める	3
	建設的でさわやかに対話する	3
	視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション	1
	認知症の被援助者とのコミュニケーション	1
	人生の最後を迎える被援助者とのコミュニケーション	1
	振り返りとまとめ	1
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	メンタルケア概論	
対象学生	総合福祉学科2年生、社会福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	基礎心理学を中心にこころのメカニズムを知識として理解し、医療・福祉・教育・産業等での相談援助及び心理カウンセリング業務やコミュニケーション向上で求められる応用能力を培う。	
授業の到達目標	メンタルケア心理士又はこころ検定の取得を通してメンタルケアに関する知識を習得できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	検定試験対策問題の復習を行うこと	
使用教科書・教材・参考書	メンタルケア学会編集「メンタルケア心理士」 こころ検定対策問題集	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 学習ガイダンス、生化学基礎（染色体と遺伝子、たんぱく質、酵素、脂肪、炭水化物）	1 コマ
	2. ストレス学基礎（ストレスと身体の反応、心理学的研究）	1 コマ
	3. 解剖生理学 組織・器官、骨格・筋肉	1 コマ
	4. 消化器系	1 コマ
	5. 循環器・血液・リンパ系	1 コマ
	6. 呼吸器、泌尿器、生殖器	1 コマ
	7. 感覚器、内分泌系	1 コマ
	8. 脳・神経系	1 コマ
	9. 生理心理学と認知心理学（感情、脳波、睡眠・夢、時間感覚、記憶）	1 コマ
	10. 薬理学基礎	1 コマ
	11. 精神医学の歴史	1 コマ
	12. 精神疾患の分類	3 コマ
	13. 発達心理学（発達課題、愛着の形成、アイデンティティの形成）	3 コマ
	14. 発達・睡眠・摂食・性格における障害	3 コマ
	15. 身体疾患と精神症状	3 コマ
	16. 薬剤論	3 コマ
	17. カウンセリング基礎知識	1 コマ
	18. カウンセリングにおける倫理	1 コマ
	19. 心理療法基礎	1 コマ
	20. ケーススタディ	1 コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援Ⅰ（生活経営）	
担当者の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活の構造や生活の質の評価の理解を深め、次世代や生活上の問題に直面している人々に対する支援を考えるとともに、他者に対する生活実践力を付与するための意識づけができるようになる。	
授業の到達目標	生活経営に関する基礎的な知識を習得し、生活問題に対する支援を考えることができる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各節末のワークシートを作成しておく。	
使用教科書・教材・参考書	中川英子編著「新版 福祉のための家政学—自立した生活者を目指して—」建帛社 国民生活センター「2019年版 くらしの豆知識」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 家族の意義と機能	1コマ	
2. 世帯から見る家族の変化	1コマ	
3. 結婚・離婚・子育てをめぐる変化	1コマ	
4. 家族と法律（家族間の権利義務、相続と遺言）	1コマ	
5. 生活史（生活史の意義と効果）	1コマ	
6. 生活史の聞き取り	1コマ	
7. 経済と家計	1コマ	
8. 経済社会の変化と消費者問題	1コマ	
9. さまざまな手口を使う問題商法	1コマ	
10. 消費者のための法律や制度（安全に関するマーク、洗濯表示、クーリングオフができる取引）	1コマ	
12. 生活時間と家事労働	1コマ	
13. 社会的ネットワーク（子育て・介護に関する社会的ネットワーク）	1コマ	
14. 生活福祉情報	1コマ	
15. シニアライフを楽しむための生活の管理	1コマ	
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援Ⅱ	
実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	衣食住の「衣」「食」を実践的に学習する。	
授業の到達目標	「衣生活」および「食生活」に関わる実践力を身につける。	
成績評価方法と基準	授業態度、出席状況、安全に演習へ参加することが出来るかを、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「生活支援技術」中央法規出版 その他資料は都度配布	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 被服について	1
	2. 繊維について	1
	3. 布の織りについて	1
	4. 繊維の原料について	1
	5. 洗濯について	1
	6. 裁縫実習（まつり縫い、ボタンつけ、布小物制作）	3
	7. 調理実習①	2
	8. 調理実習②	2
	9. 調理実習③	2
	10. 調理実習④	2
	11. 調理実習⑤	2
	12. 調理実習⑥	2
	13. 調理実習⑦	2
	14. 調理実習⑧	2
	15. 調理実習⑨	2
	16. 調理実習⑩	2
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援ⅢA	
実務経験	特別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	実務者研修での学習を振り返り、演習形式にて介助者・利用者役を体験的に学習する。	
授業の到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しを行うとともに、適切な介護技術を用いて、安全な援助技術を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	生活支援技術（中央法規出版）他	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		
		コマ数
身じたくの介護～整容における介護		1
身じたくの介護～口腔ケア		1
身じたくの介護～衣服の着脱		2
移動の介護～安全で的確な移動・移乗の介助の技法 ボディメカニクスについて ②歩行の介助の技法 ③車椅子の介助の技法 ④ベッド上の移動の技法 ⑤体位変換と安楽な体位の保持		6
食事の介護～安全で的確な食事介助の基本		2
食事の介護～利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 （感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下、誤嚥・窒息の防止、脱水の予防）		1
排泄の介護～安全で的確な排泄介助の技法 ①トイレ ②ポータブルトイレ ③採尿器、差し込み便器 ④おむつ		6
入浴・清潔保持の介護～状態・状況に応じた全身清拭の演習		2
入浴・清潔保持の介護～入浴の演習		2
入浴・清潔保持の介護～シャワー浴の演習		2
入浴・清潔保持の介護～手浴・足浴の演習		2
入浴・清潔保持の介護～洗髪介護の演習		2
まとめ		1
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	障害者支援論	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	多様な生活課題への専門分化された対応に関する知識を習得しつつ、地域社会での協働した課題解決に向けた取り組みを体系的に考える。	
授業の到達目標	障害者総合支援法等の障害支援法規の体系的理解と、現在の生活支援の課題及び解決するための取り組みを学習し、基礎となる倫理観や視点を理解する。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行う。	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉学習双書2019「障害者福祉論」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		
		コマ数
1. 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想		1コマ
2. ノーマライゼーションとリハビリテーション		1コマ
3. ICFの特徴		1コマ
4. 障害モデル		1コマ
5. 障がい者制度の目的		1コマ
6. 障害者の実態		1コマ
7. 障害者の生活実態		1コマ
8. 障害者をめぐる基本的な法律の概要		1コマ
9. 障害者総合支援法とサービス体系		1コマ
10. 障害者の福祉・介護ニーズ		1コマ
12. 他職種連携・ネットワーキングの実際		1コマ
13. 身体障害者への支援事例		1コマ
14. 知的障害者への支援事例		1コマ
15. 精神障害者への支援事例		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ピアヘルパー	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	カウンセリングの基礎知識の取得を通し、介護職に必要な情報収集・アセスメントを含めた様々なコミュニティで活用し、積極的な実務活動への能力を高める。	
授業の到達目標	日本教育カウンセラー協会主催「ピアヘルパー」検定試験に必要な知識の習得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	一般的な心理学概論の知識等も学習する。積極的に興味をもてるよう関心を深めておく	
使用教科書・教材・参考書	日本教育カウンセラー協会編集「ピアヘルパーハンドブック」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 導入・構成的グループエンカウンター	1 コマ
	2. カウンセリングの定義と略史と必要性	1 コマ
	3. カウンセリングの種類	1 コマ
	4. ピアヘルピングと近接領域の関係	1 コマ
	5. ピアヘルピングのプロセス	1 コマ
	6. ピアヘルパーのパーソナリティ	1 コマ
	7. 最近のカウンセリングの動向	1 コマ
	8. ピアヘルピングの言語的技法	1 コマ
	9. ピアヘルピングの非言語的技法	1 コマ
	10. 対話上の諸問題への対処法	1 コマ
	11. 問題の対処法	1 コマ
	12. ピアヘルパーの心がまえ	1 コマ
	13. ヘルピングスキルの上達法	1 コマ
	14. 各問題と留意点	2 コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護事務演習	
対象学生	総合福祉学科 介護・医療事務コース 2年生	
授業時間数・単位数	30コマ・2単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	サービスコード及び単位数、識別番号等を調べ、介護レセプトを記入する。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険資料を基に介護レセプトの記入ができる。 ・ 介護報酬請求事務検定試験の合格を目指す。 	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ソラスト 介護事務講座（テキスト1～4）、介護試験問題集、過去問題（プリント教材）	
授業上の注意点	必要個所に適宜マーカー等で印を付ける。	
	授業計画（内容）	コマ数
	介護試験問題①	2
	介護試験問題②	2
	介護試験問題③	2
	介護試験問題④	2
	介護試験問題⑤	2
	過去問題①	4
	過去問題②	4
	過去問題③	4
	過去問題④	4
	過去問題⑤	4
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	医療保険制度	
担当教員の実務経験	医療事務	
対象学生	総合福祉学科 介護医療事務コース 2年	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	医療機関の概要・医療保険のしくみ・その他の関連制度等を理解する。	
授業の到達目標	医療保障制度・公費負担医療制度等の関連法規の概要を理解し、活用できるようになる。	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	医療保障制度	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	オリエンテーション、見やすいテキスト作成	3
	医療機関と薬局について（医療機関の分類、医療機関と薬局の関係）	2
	チェックテスト	1
	医療保障制度	2
	チェックテスト	1
	医療保険の種類	2
	チェックテスト	1
	保険給付について	2
	チェックテスト	1
	医療事務の仕事	2
	チェックテスト	1
	公費負担医療制度	3
	労災保険、介護保険	3
	チェックテスト	1
	試験対策	4
	単位試験	1
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	医科請求事務	
対象学生	総合福祉学科 介護・医療事務コース 2年生	
授業時間数・単位数	120コマ	・ 8単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	医療保険の基礎を学んだ上で、初診から入院までのレセプト作成の演習を行いながら「実務においては」の事例を交え、机上の勉強のみに留まらないよう学習する	
授業の到達目標	11月実施の医療事務管理士の合格を目指す	
成績評価方法と基準	試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ソラストテキスト一式、点数表、基本法令テキストブック	
授業上の注意点	保険請求においては都度確認を行い学習すること	
授業計画（内容）		コマ数
授業内容の説明（検定に向かう心構え含む）		1
レセプト記入時の上書き→初再診	講義演習→確認プリント	10
医学管理～在宅医療	講義演習→確認プリント	10
確認テストおよび小テスト	解説	2
投薬～注射	講義演習→確認プリント	15
処置～検査	講義演習→確認プリント	15
確認テストおよび小テスト	解説	2
ギプス～手術・麻酔～病理	講義演習→確認プリント	15
入院		15
まとめの試験	解説	2
検定試験対策（レセプト演習および学科対策）		20
補習		13
合計		120
授業単位数		8